

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	認知症における生物学的病期と臨床病期の乖離機構の解明 ーレジリアンスと混合病理に着目した多施設データベース研究ー
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
対象者：アメリカおよび日本で実施された認知症研究データベース（Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (ADNI) 等）に登録されている方のうち、本研究で必要な診療情報、認知機能検査、脳画像検査（MRI・PET）、血液検査等のデータが取得されている方を対象とします。 対象期間：各研究データベースにおいて登録開始時から研究終了時まで収集された情報を利用します。	
③概要	
この研究では、過去に認知症研究へご協力いただいた際に取得された診療情報や検査結果を基にして、認知症における生物学的病期と臨床病期の関係の解明を行います。新たな検査や採血などをお願いすることはありません。研究への情報の利用を希望されない場合はお申し出ください。なお、お申し出によって診療上の不利益を受けることはありません。	
④申請番号	2026-0095
⑤研究の目的・意義	認知症は高齢化に伴って患者数が増加しており、一人ひとりに適した診断や治療を行うためには、認知症の原因や進行の仕組みをより詳しく理解することが重要となっています。近年では、脳の画像検査や血液検査などの進歩により、認知症の原因となる脳の変化を調べられるようになってきました。しかし、同じような脳の変化があっても、症状の現れ方や進行の速さには個人差があり、その理由は十分には分かっていません。 本研究では、アメリカや日本で行われている認知症研究で収集された匿名化された診療情報や画像データ、検査データを用いて、認知症の症状の現れ方の違いに影響する要因を明らかにすることを目的としています。この研究の成果は、認知症の診断精度の向上や病気の進行予測、患者さん一人ひとりに適した治療法の選択につながることを期待されています。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2028 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び 利用方法（他の機関へ 提供される場合はその 方法を含む。）	本研究では、過去に認知症研究へご協力いただいた際に取得された診療情報（年齢、性別、診断名など）、認知機能検査の結果、脳 MRI・PET などの画像検査、血液検査などの情報を利用します。これらの情報を用いて、認知症の症状の現れ方や進行の違いに影響する要因を明らかにすることを目的としています。 本研究では、新たな検査や採血などをお願いすることなく、すでに

	収集され、匿名化された情報のみを利用します。利用する情報には、氏名や住所など個人を特定できる情報は含まれていません。 本研究で利用する情報は、Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative (ADNI) などの認知症研究データベースから提供を受けます。 研究の実施にあたっては、新潟大学において統計解析を行い、認知症の病態との関連について検討します。研究結果は学会や学術雑誌等で公表する場合がありますが、個人が特定されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、診断名、身体所見、認知機能評価指標（CDR、MMSE、MoCA 等）などの臨床記録。MRI、PET 画像データ。髄液または血液検査結果。
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。 新潟大学 脳研究所 脳解析技術応用学分野 教授 島田 斉 新潟大学 脳研究所 脳解析技術応用学分野 助教 畠山 公大 新潟大学 脳研究所 脳解析技術応用学分野 大学院生 畠山 祐樹
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所 脳解析技術応用学分野 教授 島田 斉
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 脳研究所 臨床機能脳神経学分野 氏名：島田 斉 Tel：025-227-0683